Vol 190 株式投資の新たな選択肢！中小型株の魅力って何？

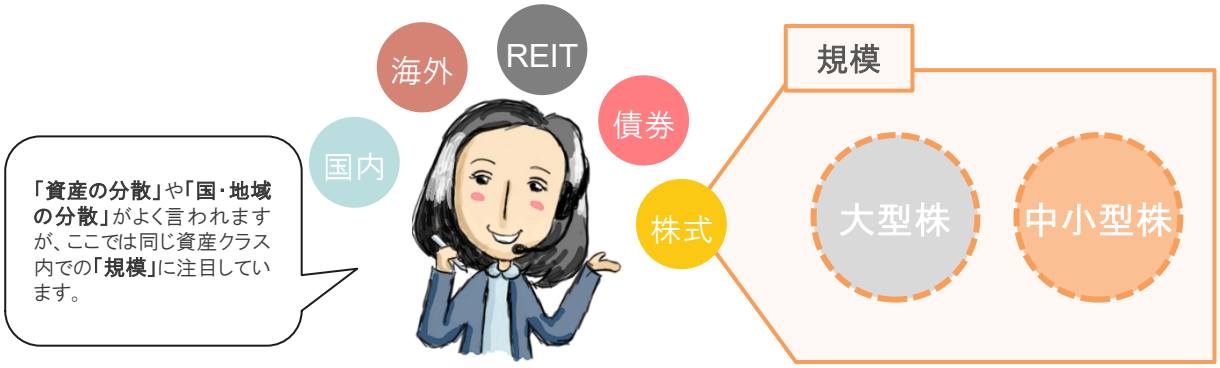
新NISAが始まってからもうすぐ1年。資産運用に慣れてきた方も増え、最近では「もっと投資対象を広げたい」というようなお問い合わせもいただくようになりました。そんな中、新しい選択肢のひとつとして注目する方が増えているのが「中小型株」。今回はその魅力について見ていきたいと思います。

分散投資に「規模」の視点を

新NISAでの投資先としてよく話題に上るのは、S&P500指数と全世界株式指数（オール・カントリー）に連動するインデックスファンドです。

S&P500指数は米国の上位500銘柄の大型株で構成されていて、オール・カントリーは全世界（先進国と新興国の47ヵ国）の大型株・中型株から構成されています。どちらも時価総額の大きいグローバルな有名企業がラインアップされているので、親しみを感じた方も多いかもしれません。

それではここから投資対象を拡大するとしたら、どんな選択肢があるでしょうか。資産運用の基本は分散投資ですが、例えば大型株がメインになりがちな中に、中小型株を拡充する「規模の分散」というのも、ひとつの考え方になります。中小型株は大型株に比べると知名度の低い企業が中心となりますが、逆に考えれば「まだ見ぬお宝」が隠れているとも言えるかもしれません。



当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

大型株にはない魅力！中小型株のここがポイント

中小型株とは「中小企業」のことではなく、「上場企業のうち時価総額（株価×発行済株式数）が中・小規模の株式」のこと。具体的に「時価総額が●●億円以上は中小型株」といった絶対的な基準はなく、その国や市場における各企業の時価総額の相対的な大きさによって「大型」「中型」「小型」に分類されるとイメージするといいでしょう。

上場企業が対象となっているため中小型株も相応の事業規模を持っていますが、大型株に比べるともっとローカルな、その国や地域に根差した企業が多くなっています。

中小型株の魅力は大きく分けて、以下の3点が挙げられます。

①成長力への期待

事業規模が小さいからこそ、特定のビジネスの成否が会社全体の業績に与えるインパクトも大きくなりがちで、商品やサービスのヒットが株価の飛躍につながるケースがあります。

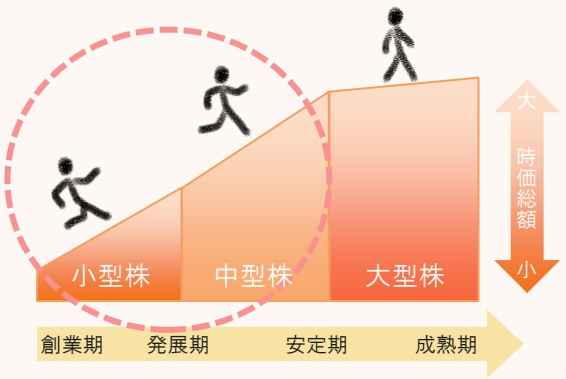
②割安に放置されがち

アナリストなどがカバーしていない銘柄が多く、メディアでの扱いも小さくなりがちな中小型株は、「実は隠れた好調・好業績企業なのに、株価がそれを反映できていない」ということが起こりやすいです。

③大型株と違う値動きをする

国や地域、業種、提供する商品・サービスが違えば、株価を動かす要因も違ってきます。中小型株とは異なり、大型株には市場規模の大きなグローバル企業が多く含まれるため、株価の動き方に違いが生まれます。

■企業の発展段階と時価総額のイメージ



※上記は企業の発展段階と時価総額の一般的なイメージを示しています。

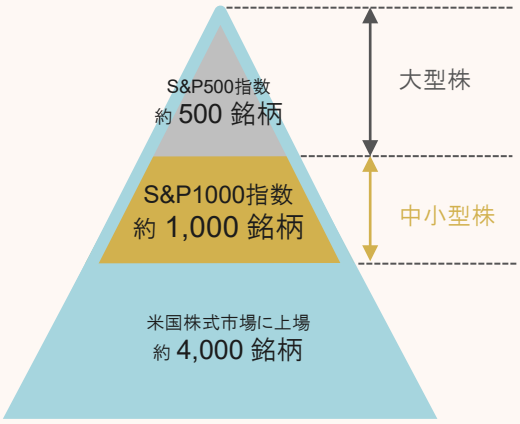
当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

指数から見る大型株と中小型株の違い

中小型株への理解を深めるために、S&P1000指数という指標を例に見てみましょう。S&P1000指数は米国に上場する中小規模の企業1000銘柄の株価動向を示すものです。右図のように、S&P500指数に比べて銘柄数は約2倍ですが、時価総額の合計はまだ1/10以下であり、今後の成長が期待される銘柄が多数集まっていると考えられそうです。

米国株式市場全体の銘柄数は、S&Pトータル・マーケット指数を使用。時価総額の「その他」は、S&Pトータル・マーケット指数からS&P500指数とS&P1000指数の時価総額を除いたもの。1社で複数の銘柄が上場している場合などがあるため、構成銘柄数が選定された企業の数と同じになるとは限りません。信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■S&P1000指数の構成銘柄
2024年8月末現在



■米国株式市場の時価総額
2024年8月末現在

S&P500指数	S&P1000指数	その他
86.3%	7.7%	6.0%

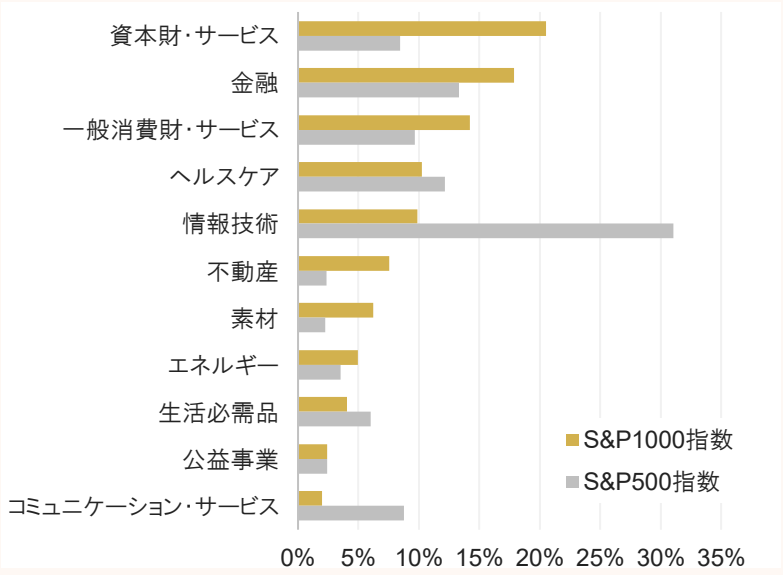
←時価総額合計57.8兆米ドル→

また、構成銘柄の業種比率（下図）で見てみると、S&P500指数は情報技術の割合が約3割と一番高くなっているのに対し、 S&P1000指数は資本財・サービスがトップになっていてその違いが顕著です。

S&P500指数の構成銘柄にはグローバルに展開するビッグテック企業が上位に並ぶ一方、S&P1000指数には日本ではまだ知名度が低い米国内を中心に活躍する企業も多く含まれます。

こういった違いが、両指数の値動きの違いに繋がっています。

■業種別構成比率
2024年8月末現在



出所：S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社。業種名は世界産業分類基準（GICS）のセクター分類に基づきます。上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

中小型株投資にも、投資信託の活用を

中小型株への期待感から、いざ投資を始めよう！と思った方も多いかもしれません。ただ、中小型株の個別株への投資は、大型株以上に目利き力が必要になるため、より慎重になる必要がありそうです。

そこで、個々の銘柄を選ぶ手間や運用をプロにお任せできる投資信託を活用してみてはいかがでしょうか。投資信託の「中小型株ファンド」も大型株と同じように、アクティブファンドとインデックスファンドに分かれます。アクティブファンドは調査・分析を経て銘柄数を絞り込む、いわゆる「プロの目利き力」を生かすもの。一方インデックスファンドは中小型株市場全体をとらえられるというイメージです。ぜひ調べてみてください。

大型株中心だった株式のポートフォリオに、中小型株を入れて「規模の分散」を図る。そんな視点を変えた分散投資を、検討してみてもおもしろいかもしれません。

今回の内容は日興アセットWebサイト「**20年後Lab.（ラボ）**」内で詳しく取り上げています。

→ コラム「中小型株投資って何がいいんですか？」

https://www.nikkoam.com/20lab

「**20年後Lab.（ラボ）**」は、「ずっと使える資産運用の知識」をシミュレーションやコラムでお伝えする「**資産運用ガイドWeb**」です。ぜひご覧ください！

nikko am
コールセンター
0120-25-1404
営業時間　平日　9:00～17:00

当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。